

日本性科学学会 ニュース

第25巻第2号

平成18年(2006年) 6月

発行人: 大川 玲子 印刷所: 懶 絢 文 社

第26回 日本性科学学会のお知らせ

会 期: 2006年11月18日(土) 午後 第8回性科学セミナー
11月19日(日) 第26回日本性科学学会 学術集会
場 所: 仙台市情報産業プラザ(アエルビル5F) 多目的ホール・セミナールーム
学 会 長: 村口 喜代(村口きよ女性クリニック院長)
メインテーマ: 「ジェンダーとセクシュアリティ」
一般演題: (口演)

特別講演: 「美術史を通して見るジェンダーとセクシュアリティ」
若桑みどり(ジェンダー文化研究所所長)
～ 市民公開講座として開催する ～

基調講演: 「ジェンダーの基本的概念 歴史的考察と現状認識」
芦野由利子(ジョイセフ(家族計画国際協力財団)評議員, 前日本家族計画協会参与)
シンポジウム: 「日本社会におけるジェンダーとセクシュアリティの現状と課題」
須藤 廣(北九州市立大学文学部人間関係学科教授),
宗片恵美子(特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事)
堀口 貞夫(主婦会館クリニックからだと心の診療室院長)
沼崎 一郎(東北大学大学院文学研究科教授),
中村 美亜(セクソロジスト)

教育講演: 性の健康国際学会 モントリオール宣言「ミレニアムにおける性の健康」
大川 玲子(国立病院機構千葉医療センター産婦人科医長)
学会長講演: 「性の健康とジェンダー」
ランチョンセミナー: 「ジェンダーとピル」協賛: 日本シェーリング
北村 邦夫(日本家族計画協会クリニック所長)

一般演題申し込み締め切り 2006年7月21日(金)

(演題募集はE-mailのみ, ご発表はパソコンプロジェクターを使用した口演のみとさせていただきます)

募集要項

詳細はホームページへアクセスしてください。

学会事務局

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-2-3 仙台MTビル2F 村口きよ女性クリニック(担当: 長谷川泰子)

Tel: 022-292-0166 Fax: 022-292-0167 e-mail: 26th-jsss@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

Vol. 25

№
2

日本性科学学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

レズビアン・ゲイ・バイセクシュアルの日常生活体験について

国立精神・神経センター 精神保健研究所 石丸 径一郎

はじめに： レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル（同性愛・両性愛である人々：以下LGBと略記する）の多くは、外見によって判別することが困難な「見えないマイノリティ」である。そのため、職場・学校・家庭などでは、特に自身がLGBであるとカミングアウトせずに過ごしていることが多い。したがって、異性愛者たちは生活の中で「LGBである人に出会う」という体験をすることが少ない。LGBの生活の様子と日常経験を描き出し、イメージを容易にするために、ダイアリー法調査と質的分析によっておこなった研究を紹介する。

方 法： 自身がLGBであると認識しているゲイ男性16名、レズビアン女性2名、バイセクシュアル男性3名、バイセクシュアル女性6名（計27名）に、2週間のダイアリー法調査への協力を依頼した。年齢の範囲は17～37歳で、平均26.0歳、標準偏差は5.3歳であった。LGBコミュニティにおけるイベント、メーリングリスト、サークルなどで研究参加者を募集した。全員が首都圏に居住している。ダイアリー法調査のための携行用冊子は、B6サイズ（12.9cm×18.2cm）で68ページのものである。「自分のセクシュアリティに関して意識するきっかけとなった出来事とその時の気分」について、できるだけすぐ書き留めるように依頼した。

結 果： 質的研究法の中で広く用いられており、ある程度の信頼を獲得してきたと考えられるグラウンデッド・セオリー・アプローチの修正版であるM-GTA（木下、2003）を採用した。分析ワークシートという一定のフォーマットにしたがい、データの継続的な比較分析や類似例と対極例の検討などによって、概念を生み出していく方法である。

分析の結果、LGBたちの主観的な生活体験の多くは、あたかも2つの異なった世界を生きているかのように感じられていた。2つの世界とは、LGBたちの言葉で言う“あっちの世界（職場・学校・家庭など異性愛者たちの世界）”と“こっちの世界（新宿二丁目などのゲイタウンや、LGB同士の友人関係など）”である。本研究に参加したLGBたちは、“あっちの世界”においては、特にLGBであることを明らかにせずに、異性愛者の世界の中に溶け込んで生活している。一方“こっちの世界”においては、週末にゲイタウンである新宿二丁目等に遊びに行ったり、ゲイサークルで活動したり、LGBの友人たちと会ったりなどLGBとしての自分を隠さずに行動できる。“あっち”“こっち”という言い方は、LGBコミュニティではしばしば使われており、ある人がゲイであるということと言う時に“彼はこっちの人”などの使われ方をする。

“あっちの世界”にいと感じられる経験には、次のようなものがあった。《友人と電話で話している時に「今、彼女いるのー？」と聞かれた時にとまどった。ゲイだと言っちゃおうかと思ったが電話なのでやめた。いつかは「彼氏いるの」って話せるようになりたい。（ゲイ男性）》このように、自分が（積極的に、または消極的に）異性愛者であるかのようにふるまう経験は非常に頻繁に見られ「異性愛者を装う」と名づけた。また《妹とテレビを見ていて、ゲイっぽいアメリカ人が出ていた。妹は「気持ち悪い」と連発していた。（ゲイ男性）》のように「直接的に否定されるやりとり」も見られた。

一方“こっちの世界”にいと感じられる経験には、次のようなものがあった。《ゲイの人たちと好みの俳優について話した。男しか話題にのぼらなかったが、違和感なく話が進んでいるのが楽しかった。（ゲイ男性）》のように「LGB同士で楽しく過ごす」経験がしばしば見られた。《大学生のやつらと飲んで盛り上がった。世代を超えている人々と仲良くなれたとき、ゲイの幸せを感じるね。（30代ゲイ男性）》のように、LGBであることを共通点と感じて「人間関係が広がる」という経験も特徴的である。

“あっちの世界”と“こっちの世界”の間にあると考えられる経験も見られた。《唯一カミングアウトしている異性愛の友だちと電話。「気持ち悪い」とか「変」とかそういう偏見を持たない友人がいてくれて、本当にありがたいと思った。（バイセクシュアル女性）》のように“異性愛者からの受容”と表現できる経験が見られた。その他、LGBであることで、異性愛が前提とされた社会に対して違った見方ができるという「独自の視点を持てる」などの経験もあった。

考 察： LGBは生活の中で多くのポジティブな体験をしていたが、その一方で、異性愛者を装い、率直な感情を抑え込んで生活するというストレスにさらされていることが示唆された。LGBの生活においては、他者からの受容と拒絶というテーマが重要であると思われる。本研究には、LGBであるとのアイデンティティを確立できている者、都市部に居住している者、20代を中心とする者に参加者が偏っている限界がある。

第9回アジア・オセアニア性科学会のご案内

第9回アジア・オセアニア性科学会（9th Asia Oceania Congress of Sexology）はタイ、バンコック市にて2006年11月4日～11月7日の日程で開催されます。会長はDr. Verapol Chandeying（Consortium of Thai Training Institutes for STDs and AIDS）です。本学会のテーマはSexuality: No East No Westです。登録費は8月31日まで400USD 以後は450USD（同伴者は200USD）となります。抄録締め切りは6月末日までです。公用語は英語です。参加登録、抄録投稿には学会ホームページをご利用下さい。http://www.cottisa.org/ から入っていただけます。

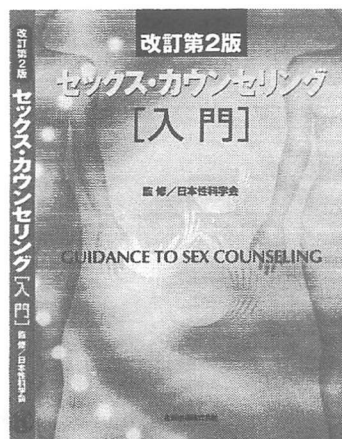
なお、学会ツアーは日本性科学連合（JFS）事務局で募集中です。10月30日（日）成田発、11月5日（日）早朝、成田帰国のスケジュールで、学会開催地のエメラルド・ホテル泊（エコノミークラス、2人1室の場合で107,000円を予定しています。）

お問い合わせは、日本性教育協会内、日本性科学連合事務局（TEL：（03）6801-9307～8 FAX：（03）5800-0478 E-mail：info@jase.or.jp）まで。

大川 玲子 記

〔書籍紹介〕

セックス・カウンセリング入門改訂第2版



1995年に初版された本書を活用して下さった会員も多いことと思います。10年が経ち、性科学についても大きな学問の進歩がありましたので、会員・非会員の、多数の専門家に執筆を依頼して、ほぼ全面改訂といえる第2版をお届けしました。性治療、性カウンセリングが中心の書ですが、適切なカウンセリングをするためには、偏りの無いセクシュアリティについての見識が必要です。その意味で、本書は性の多様性を重視し、セクシュアル・マイノリティの章や、ライフステージと性、疾患と性についての内容を充実させました。サイズもA5判からB5判とワイド化して、読み易くなりました。是非、初版同様、性科学の実践に役立てていただき、また人間の性や性の臨床に興味ある方、全人的医療をめざす方に入門書としてご推薦下さい。

（日本性科学会監修 金原出版 2005 本体5,800円）

文責 大川

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト

資格認定および更新に関する告示

資格認定制度委員会委員長 阿部 輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定ならびに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成18年度の資格認定ならびに更新を行います。申請期間は、8月1日～8月31日です。

資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局まで、ご請求下さい。

なお、資格更新該当者には、事務局より更新申請書類を7月中に郵送致します。

いずれの場合も、規定をご熟読の上、ご申請下さい。

第 11 回日本性科学会総会議事録

日 時：2006 年 5 月 28 日午後 1 時 15 分～1 時 45 分 場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館 5 F 講堂，東京
司会者（針間幹事長）が議長を誰にすべきかを会場に諮った。会場からの「司会者に一任」の声を受け，堀口貞夫理事が
議長となる。以下堀口貞夫理事の議長で進行。
議長より，「出席者 46 名，委任状 134 名。総会が成立した」との報告があった。

議題 1 2005 年度事業報告（大川理事）

○2005 年度の事業報告が大川理事からなされ，承認された。（資料 1）

議題 2 2005 年度決算の承認（山崎理事）

○2005 年度の決算が山崎理事より報告された。（資料 2）

○野末理事より監事による監査を受けた旨の報告があり，決算は承認された。

議題 3 日本性科学会理事長選任について

議長より，過日の選挙において当選した選出理事の互選により，大川理事が理事長に選出されたことが報告され，大川
理事長の選任が提案され，承認された。

議題 4 日本性科学会理事選任について

○大川理事長より理事選挙で当選の選出理事 10 名及び理事長指名の指名理事 3 名が提示され，承認された。

○大川理事長より副理事長，常務理事，担当理事，委員長，参与，幹事の紹介があった。

議題 5 日本性科学会監査選任について

○野末理事より本多洋氏，長田尚夫氏を選任したい旨の提案があり承認された。

議題 6 2006 年度事業計画案の承認（阿部理事）

○2006 年度の事業計画が，阿部理事により提示され承認された。

議題 7 2006 年度の予算案の承認（山崎理事）

○2006 年度の予算案が山崎理事より提示され承認された。

議題 8 第 27 回日本性科学会学会会長選任について

○大川理事長より高波真佐治東邦大学佐倉病院泌尿器科教授が推薦され，承認された。高波教授の挨拶があった。

議題 9 学会会則変更について（阿部理事）

以下の 2 項目の変更が提案され承認された。

○第 6 条 2 臨床心理士 → 心理専門職

○第 8 条 会員 2 名以上の推薦 → 原則として会員 1 名以上の推薦

議題 10 資格認定制度委員会報告（阿部理事）

○2005 年度の新しい資格申請者はセラピスト 3 名。

○2005 年度更新者は，カウンセラー 2 名，セラピスト 10 名。

○2006 年 5 月 20 日現在，セックス・カウンセラー 19 名，セックス・セラピスト 39 名。

第 26 回日本性科学会学会会長挨拶

○村口喜代学会長の「学会は，仙台で 11 月 18～19 日に開催。多くの方の参加を期待している」との挨拶があった。

阿部理事による閉会の挨拶

文責 金子 和子

総会資料 1

日本性科学会 2005 年（平成 17 年）度事業報告（2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）

1. 第 10 回総会
 - 期 日：2005 年 5 月 22 日 午後 1 時 15 分～1 時 45 分
 - 場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館
 - 出席者：51 名 委任状：138 名
2. 会員状況

会員数	2004 年度末	正会員	295 名	賛助会員	3 法人
	2005 年度末	正会員	295 名	賛助会員	4 法人
年度内会員移動	入会員数	正会員	25 名	賛助会員	1 法人
	退会員数	正会員	25 名	賛助会員	0 法人
3. 会の運営
 - (1) 理事会 3 回
 - (2) 幹事会 12 回
4. 学術集会の開催
 - (1) 第 25 回日本性科学会
 - 期 日：2005 年 11 月 6 日
 - 場 所：東京都・東京医科歯科大学 5 号館
 - 会 長：麻生 武志
(東京医科歯科大学 周産・女性診療科 教授)
 - テーマ：性科学の現状と展望
5. 研修会，研究会の開催
 - (1) 第 34 回性治療研修会
 - 期 日：2005 年 5 月 22 日
 - 場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館
 - (2) 症例研究会 6 回開催
6. 学会誌，学会ニュースの発行
 - ・学会誌 2 回
 - ・学会ニュース 4 回
7. 資格認定制度実施状況
 - 資格認定者
 - ・セックス・カウンセラー 更新 2 名 登録者数 19 名
 - ・セックス・セラピスト 新規 3 名 更新 10 名 登録者数 39 名
8. 関連団体との交流
 - (1) 日本性科学連合（J F S）
 - ・加盟団体：日本性科学会，(社)日本家族計画協会，
(財)日本性教育協会，日本思春期学会，日本性機能学会，
日本性感症学会
 - ・第 7 回性科学セミナー
 - 期 日：2005 年 11 月 5 日
 - 場 所：東京都・東京医科歯科大学 5 号館
 - (2) 第 18 回世界心身医学会議
 - 期 日：2005 年 8 月 21 日～26 日
 - 場 所：神戸市・神戸国際会議場，
神戸ポートピアホテル
 - (3) G I D（性同一性障害）研究会
 - (4) 性の健康（セクシュアル・ヘルス）国際学会
[旧・世界性科学会]
- 第 17 回世界性科学会議
 - 期 日：2005 年 7 月 10 日～15 日
 - 場 所：カナダ・モントリオール市
- 特記事項：
 - 学会名称の変更
 - モントリオール宣言
「ミレニアムにおける性の健康」
- (5) 第 1 回東アジア性科学会議
 - 期 日：2005 年 11 月 5 日
 - 場 所：東京都・東京医科歯科大学 5 号館
9. その他の活動
 - (1) セクシュアリティ研究会（代表：荒木乳根子）
 - (2) がんと性研究会「実行委員会」（代表：高橋 都）

日本性科学会 2005 年（平成 17 年）度決算（2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）

日本性科学会 2006 年（平成 18 年）度事業計画案（2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

1. 学術集会の開催
 - 第 26 回日本性科学学会
期 日：2006 年 11 月 19 日（日）
場 所：仙台市・仙台市情報産業プラザ
会 長：村口 喜代（村口きよ女性クリニック院長）
テーマ：「ジェンダーとセクシュアリティ」
 - 症例研究会
2. 研修会、研究会の開催
 - 第 35 回性治療研修会
期 日：2006 年 5 月 28 日（日）
場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館
3. 学会誌、学会ニュースの発行
4. 資格認定制度の実施
5. 関連団体との交流
 - (1) 日本性科学連合（J F S）
6. その他の活動
 - ・セミナー／2006 年 11 月 18 日（土）
仙台市情報産業プラザ
 - (2) G I D（性同一性障害）研究会
 - (3) アジアオセアニア性科学学会
 - (4) 性の健康世界学会（旧世界性科学会・W A S）
アドバイザリー・ボード会議：2006 年 4 月 28 日～
5 月 2 日 メキシコ・オアハカ市／大川玲子理事出席
 - (5) W A S モントリオール日本語版を、性の権利宣言と
ともに W A S ホームページに収載予定。
<http://worldsexology.org/>
 - セクシュアリティ研究会（代表：荒木乳根子）
 - がんと性研究会「実行委員会」（代表：高橋 都）との
共同研究

日本性科学会 2006 年（平成 18 年）度予算案（2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

2006 年度 日本性科学会役員

名誉理事長（顧問）	松 本 清 一	(社)日本家族計画協会会長・群馬大学，自治医科大学名誉教授
名誉副理事長（理事）	野 末 源 一	山王病院産婦人科
理 事 長		
国際関係委員長	大 川 玲 子	国立病院機構千葉医療センター産婦人科医長
副 理 事 長		
資格認定制度委員長（総務担当）	阿 部 輝 夫	あべメンタルクリニック院長
常 務 理 事		
学術委員長	武 田 敏	千葉大学名誉教授
理 事		
倫理委員長	廣 井 正 彦	山形大学名誉教授
学術副委員長 (財務担当)	山 崎 高 明	山崎産婦人科医院院長
	金 子 和 子	日本赤十字医療センターカウンセリングサービス臨床心理士
	石 津 宏 修	琉球大学名誉教授
	石 河 修	大阪市立大学大学院医学研究科・医学部女性病態医学講座教室教授
	川 野 雅 資	川野メンタルヘルス研究所所長
	亀 谷 謙 謙	亀谷メンタルクリニック院長
	村 口 喜 代	村口きよ女性クリニック院長
	堀 口 貞 夫	主婦会館クリニックからだと心の診療室院長
参 与	麻 生 武 志	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生殖機能協同学教授
監 事		
	本 多 洋 夫	三井記念病院産婦人科
	長 田 尚 夫	聖マリアンナ医科大学泌尿器科客員教授
幹 事		
幹 事 長	針 間 克 己	東京武蔵野病院精神科
副 幹 事 長	塚 田 攻	埼玉医科大学神経精神科講師
	矢 島 通 孝	やじま泌尿器科クリニック院長
	茅 島 江 子	東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授
	大 谷 真 千 子	千葉県立衛生短期大学看護学科教授
	高 橋 都 子	東京大学大学院医学研究科健康学習・教育学分野助手
	山 中 京 子	大阪府立大学社会福祉部助教授
	永 井 敦 子	川崎医科大学泌尿器科教授
	森 村 美 奈 子	大阪市立大学大学院医学研究科卒後医学教育学講師
	杉 山 正 子	すぎやまレディースクリニック院長
事 務 局 長	本 郷 元 夫	新医学普及協会理事
顧 問	長 池 博 子	長池産婦人科医院相談役